

平成28年度 音楽科の現状と課題

部長 桑山 明夫

全県的に概観してみると、毎年「親善音楽会」や「交歓音楽会」を実施しているところがあり、それにより児童の音楽性を向上を図っているところがある。「研修会」はどの地域でも実施しており、「研究授業」を通して音楽科の授業改善をいかに図るか検討を加えている様子が見えてくる。教師自身の「実技研修」も多数の地域で実施しており、教師自身の演奏技術の向上や児童への楽器指導力を高めている。

今年度、「新学習指導要領」に向けた研修を行った地域があることが特徴的である。音楽科における「主体的、対話的で深い学び」の考え方について共通理解し、来るべきに備えている様子が見えてくる。上・中・下越のそれぞれの地域とも、「音楽会」や「研修会」（「研究会」）を実施し、児童の音楽性を高め、教師の指導技術の向上を図っている点が評価できる。反面、研究会別に概観してみた場合、部員が少ないために研修内容の充実を図ることが困難な地域もある。しかし、総じて言うならば、県全体としては音楽教育の質的な維持・向上が図られていると考えられる。

1 授業改善に関して

どの研究会においても音楽科授業の改善に向けた「授業研究」を実施している。「伝統音楽（芸能）の授業のあり方」（長岡三島）を継続研究したり、地域に残る能や太鼓などの実技講習（佐渡）を実施していることは特筆に値する。子どもたちへの「意欲的な学習活動」を模索している点はどこの地域も共通している。音楽授業において「音や音楽の可視化」（新潟市）も音楽授業の改善に生かせるものとして評価できよう。また、研修会そのものを少人数グループでのディスカッション型にして、校種の異なる会員の意見交換や情報交換に工夫を加えている地域（十日町中魚）もある。

2 指導技術の向上に関して

教師自身の指導技術向上を目的とした実技研修は、どこの地域でも実施しており、「合唱指導法」や「楽器演奏」の実技研修を実施している地域が多い。「指揮法」の講習会（長岡三島）や指揮に合わせての「合唱指導研修」（三条、魚沼、五泉阿賀野、柏崎）は、明日の授業に直結した実技研修を実施している。地域の「音楽発表会」で演奏する職員演奏曲（リコーダー合奏）を実技研修とした地域（妙高）もある。

3 新学習指導要領対応に関して

新学習指導要領改定の趣旨に鑑み、「新しい音楽科授業のあり方」（十日町・中魚）を模索した研修を実施している地域がある。上越地域の「音楽研究発表会」では、「主体的、協働的な音楽授業のあり方」を研究テーマとして参会者同士で研修を深め、今後とも「主体的、対話的で深い学び」について更に研修を進めていく予定という。言語的な活動と非言語的な活動をどのように組み合わせた音楽授業を展開していくかは、校種を問わず、地域を問わず、全県的な課題と言えよう。